

6月のハイライト

GM 食品に対する消費者の態度に影響を与える可能性があるさまざまな要因を調査し、GM 食品に関する彼らの知識が最大の決定要因であることを見出しました。事実、GM の知識は、社会経済的地位、人種、学歴、年齢、性別などの他の要因よりも 19 倍以上高かった。彼らはまた、GM 食品に関する特定の知識は、対象者の一般的な科学的知識とは無関係であることを見出しました。この研究はアメリカで行われ、その後イギリスとオランダでも行われた。米国の研究では、彼らは GM 技術の背後にある基礎科学を教えられた 231 人の大学生を対象とした 5 週間の縦断的研究で調査を追跡した。彼らは、遺伝子組換え技術を習得した後、遺伝子組み換え食品に対してより積極的な態度をとり、それらを食べようとする意欲が高まり、遺伝子組換え食品の危険性に対する認識が低下したことを発見した。我が国ならばどうなるだろうか？未だに感情論が多い日本ももう冷静に科学的に判断を下せるようになってほしいものである。

ヨーロッパで GM 作物を栽培してきているスペインとポルトガルでの耐虫性トウモロコシの使用に関する最新の調査結果を発表した。調査は、1998 年にスペインで GM トウモロコシが最初に植えられたときから 21 年間をカバーしている。それ以来、2018 年までに、121,000 ヘクタールの耐虫性トウモロコシが両国で植えられた。これはスペインのトウモロコシ総面積の 35%、ポルトガルの 6% に相当する。研究はまた GM トウモロコシを農家がより少ない資源を使用しながら食料と飼料のためにより多くのトウモロコシを育てたかを述べている。また、作物に散布する農薬と化石燃料を減少させたとも述べている。

国際的な研究チームは、気候変動はすでに主要なエネルギー源の生産に影響を及ぼしている。しかもある地域は他の地域よりもはるかに悪いこともあると報告している。世界のトップ 10 の作物 - オオムギ、キャッサバ、トウモロコシ、アブラヤシ、ナタネ、イネ、モロコシ、ダイズ、サトウキビ、およびコムギ - は、農地で生産される全カロリー合計の 83 パーセントを供給している。彼らは、観測された気候変動と作物収量を影響の評価のために用いた。その結果、次のことを発見しました。気候変動に対応するには、GM 作物の貢献に期待するところが大きい。

心臓に健康的な効果のあるオメガ 3 の魚油を生産する植物の開発を率いる植物バイオテクノロジーの先駆者である Johnathan Napier 教授は、「誤った情報と過剰な規制により、命を救える GM 食品を焼死者に届くのを妨げたり遅らせたりしている。」と述べている。とともにヨーロッパのオランダをはじめとする 14 カ国が欧州委員会の作業プログラムに追加されるべき EU GMO 規則の改訂を求めた。彼らの意見では、突然変異誘発によって得られた生物は GMO とみなされるべきであり、したがって EU の GMO 指令に定められた安全性とマーケティングの義務の対象となるべきであるという欧州裁判所による昨年の判決後の更新が必要であるとしている。欧州司法裁判所の判決は突然変異誘発および他の NPBT の法的地位についてより法的な明確さを提供したが、それは欧州立法

者によってのみ解決されることができる他の多くの実用的な問題も引き起こしたと述べた。代表団はまた、突然変異誘発によって得られた生物が長年にわたり農業で使用されてきており、長い安全実績を持っていることを EU 大臣に思い起こさせている。